

その1 北海道の家づくりは木造住宅

—長持ちのする家づくり—

ポイント1 単純な形の家をつくらう

北海道の家づくりは、まず形からが第一歩だと考えます。住宅の全体の形は、家の間取りと共に誰もが重視することです。"家らしさ"の最も重要なポイントで、建主も、大工も、設計者も色々と工夫をこらします。従来、北海道の住宅は総2階建の単純な形で作った方が灯油が少なくすむといわれてきましたが、灯油が効かないことも大事だが、"家らしさ"の方が、或いは"間取り"の方が大事だと誰しもが考えてきました。

ここで、あえて、単純な形の家をつくらうという理由は次のようなものです。

① 複雑な形の家は、断熱上の欠陥が生じやすく、

寒い灯油のかかる家になりやすい。

② 単純な形の方が建設費が非常に安く、また当然熱損失も少く灯油がかからない。

③ 雪や氷、寒さからくる屋根、外壁等の障害が少なくてすむ。

もちろん、欠点もあります。総2階建の小さい家では、間取りがまとめにくく、どうしても1階が手狭になりやすく、また外観もつまらなくなり易いのです。

しかし、例えば、1階が20坪、2階が10坪の30坪の家より15坪総2階の家の方が、基礎も屋根も外壁も少なくて済み、その分安く済み、そ

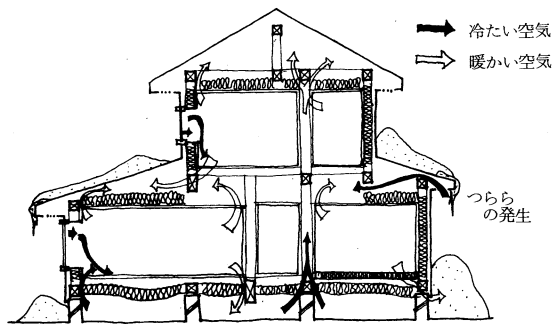


図-1 複雑な形の欠陥の多い寒い住宅

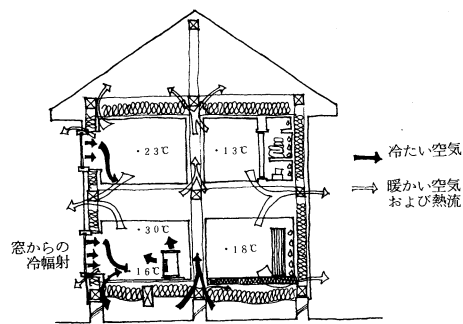


図-2 単純な形で断熱の欠陥によって寒い家となる

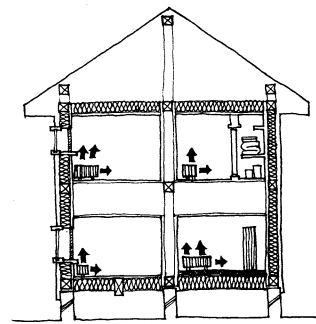


図-3 単純な形で欠陥のない暖かい住宅

のお金が暖かさをもたらすために、或いはもう少し広い家をつくるために使えるとするならば、単純な形で良い間取りで、美しい外観の家づくりに挑戦してみたくはなりません。最近の大手のホームビルダーの住宅が総2階のものが増えてきているのも同じ理由からなのです。40坪位のプランなら、展示場を一回りすれば沢山実例が手に入ります。図5-8のような30坪のプランも可能性があるので。しかし、最近のモデルハウスの

ように、単純な総2階建の単調さをさけるために、外観を過度に飾った住宅をみると、何のために単純な家づくりを始めたのか、疑問がわいてきます。もっとお金をかけるべきところは別にあるのです。

図-4

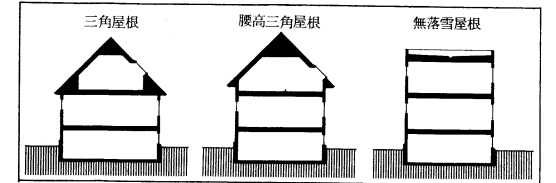


図-5 南入 1F: LDK・和室・サニタリー

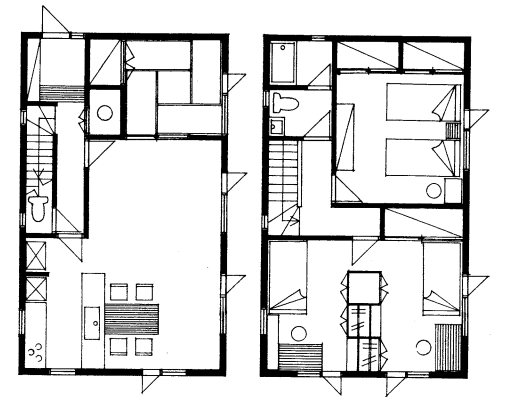


図-6 北入 2Fにサニタリーの例

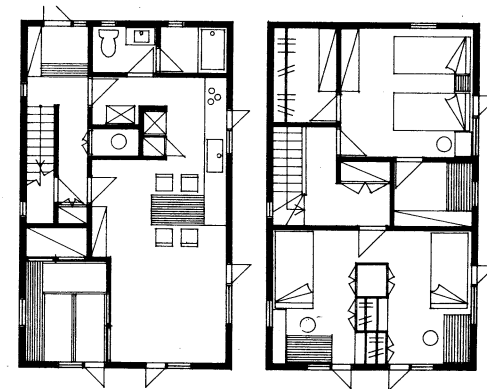


図-7 北入 1Fの和室をコンパクトにした例

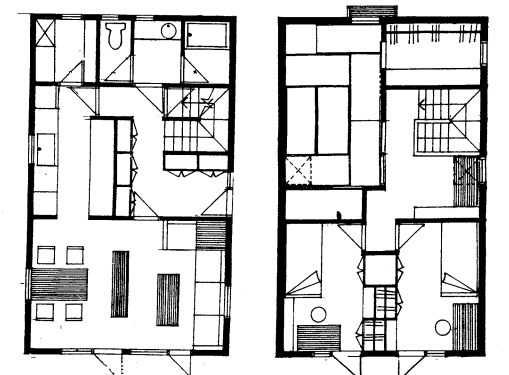


図-8 長手方向に玄関をとった例